



入 学 式



学位記授与式

医学部附属病院と歯学部附属病院が統合し 北海道大学病院を発足

医学部附属病院と歯学部附属病院は平成15年10月1日をもって統合し、北海道大学病院となりました。

医学部附属病院は、大正10年北海道帝国大学医学部に附属医院が設置され発足、昭和24年北海道大学医学部附属病院と改称し、28診療科、14中央診療施設で診療にあたっておりました。

一方、歯学部附属病院は昭和42年に設置され、3診療科及び高次口腔医療センターで診療にあたっておりました。

医学部附属病院、歯学部附属病院の統合は、学部学生及び大学院学生に対する臨床教育並びに臨床研究を通して、複雑な社会機構の中で単に病気のみを診るのではなく、病める人々の人格を最大限尊重し、優れた知識と技術を備えた全人的医療人の育成を目指し、医学・歯学並びに医療の発展を図るものです。

また、この統合による両病院の有機的な結合は診療・研究・教育のいずれにも相乗効果をもたらし、全人教育の充実、医学・歯学系統合研究の展開並びに患者サービスの向上等の観点でも有意義なものとなります。診療においても医科・歯科の独自性を尊重しつつ新たな診療部門などを稼働させることで良質な医科・歯科総合医療の提供が可能となり、さらに、近年の疾病構造の変化、少子高齢化社会への移行、医療ニーズの多様化等に対応できる体制を整え、併せて大学病院の役割である高度先進医療の開発と臨床への応用を推進し、その成果を医療人の育成や地域医療への支援、市民への健康サービスの提供等を通じ社会に還元しようとするものです。



次世代ポストゲノム研究棟における研究の推進

現在，北大北キャンパスエリアでは，知的集積を背景に，北海道はもとより，日本や世界に貢献できる研究開発の促進と新たな事業創造をねらいとした「リサーチ・アンド・ビジネスパーク構想」実現への動きが進んでいます。この構想の中核となる研究が，次世代ポストゲノム研究です。

次世代ポストゲノム研究とは，構造生物学を基盤としたプロテオーム研究や複合糖質や脂質を中核としたメタボローム研究を展開するとともに，これらの研究基盤の上に，細胞工学，免疫，再生医学，ナノバイオサイエンス及び生物資源探索等に関する研究を行うものです。

基礎から応用・実用化までの開発研究を系統的・重点的に推進するバイオの先端研究の拠点として，平成15年3月，北キャンパスエリアの産学連携ゾーンに「次世代ポストゲノム研究棟（期棟）」が竣工しました。

次世代ポストゲノム研究棟内では，現在，主に理学研究科，医学研究科，薬学研究科，地球環境科学研究科などの教員等が，3分野（糖鎖工学・化学生物学研究分野，細胞工学・再生医療工学研究分野，構造生物学・バイオインフォマティクス研究分野）の研究を複合・融合的に推進しており，全学では初めての試みである部局横断的な研究体制であることから，「次世代ポストゲノム研究部門」として創成科学研究機構の戦略的プロジェクト研究部門の一つに位置付けられています。

研究内容としては，例えば，タンパク質の多くを修飾している糖鎖が，タンパク質の機能制御や細胞間のシグナル分子としての役割を果たしていることが明らかになってきており，糖鎖がどの時期にどの場所で働くのか，その役割を解明し，幅広い分野で応用する研究を行っています。また，この糖鎖工学を応用した，軟骨・靱帯・神経などの運動組織再生（scaffoldの素材研究）についても研究を行っています。さらに，遺伝子の発現に関わるタンパク質を対象に5年間で100個以上のタンパク質の構造解析を行い，医薬品への開発研究につなげるなどの国際プロジェクトにも参加した研究を行っています。

平成16年2月に竣工した次世代ポストゲノム研究棟（期棟）では，遺伝子病制御研究所の教員等が加わり，スフィンゴ脂質・糖脂質の生理機能に基づく，癌，自己免疫疾患，生活習慣病に対する創薬と機能性食品の開発，ナノテクノロジーを用いた細胞内手術装置の開発，DNAアレイとバイオコンピューティング，免疫バランス制御法の研究を遺伝子，タンパク，細胞レベルで展開し，地域の環境バイオや医療バイオ等の活性化に貢献する研究が推進されることとなっています。

このように，次世代ポストゲノム研究棟では，新しい北大の息吹として，真理を探究する基礎研究を推進すると同時に，事業化を見据えた応用・実用化研究も進められ，北海道の産学官の大きな期待が寄せられています。



創成科学研究機構における「知」の創造と「知」の活用

平成14年2月、総長のリーダーシップの下にトップダウン的に運営する新しいタイプの研究組織として、学内措置により設置された創成科学研究機構は、平成15年9月、触媒化学研究センター及び電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センターとの合築棟として竣工した創成科学研究棟において、基礎研究の推進による複合・融合的研究の展開のみならず、「知の創造」と「知の活用」への研究システムづくりを進めています。

創成科学研究機構は、現在、北キャンパスを中心に展開されている科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」の実施組織として、学内のみならず、周辺の研究機関等との連携体制を推進しています。

部局横断的で先端的・萌芽的な研究を推進する体制として、任期付きの教員で構成する「特定研究部門」には、現在2名の教授により、全国的な規模の研究プロジェクトが進展しつつあります。また、学内からの教員で構成する「流動研究部門」には、文学研究科，理学研究科，薬学研究科，工学研究科，農学研究科，地球環境科学研究科，電子科学研究所の計7部局9名の教官が所属し，ラボスペースなどの共有化を図りつつ，新たな学問領域の創成に取り組んでいます。さらに，我が国の科学技術政策から生まれた戦略的プロジェクトで推進している「次世代ポストゲノム部門」などを整え，複合・融合分野の新しい知の創造に取り組んでいます。

本学の新たな知の創造・活用の施策としては，(株)日立製作所及び三菱重工業(株)との包括連携の連携事務局として，ナノテクノロジー・材料分野，バイオテクノロジー分野，資源・環境分野，エネルギー分野における研究（技術）交流，人材交流，人材育成の面で，積極的な活動を展開しています。

なお，平成15年11月27日（木）に竣工式典，平成16年1月22日（木）に第1回創成科学シンポジウムを開催し，学内外から約100名の参加者を集め，全学的な規模での研究展開を行うことが表明されました。



北海道大学東京オフィス

平成15年4月1日，東京の品川駅の近くに「北海道大学東京オフィス」を開設しました。

行政，産業，経済の中心である東京に本学の活動拠点設けることについては，教育・研究の一層の発展に必要であるとともに，首都圏での学生の就職活動支援や広報拠点としても大きな意味を持つことから，その必要性について学内外から要望があり，設置しました。

オフィスは，駅前の新高輪プリンスホテルの1階ミーティングフロア サファイヤールームにあり，大学情報や研究業績などを広報誌・ビデオ等で提供し，パソコンによる情報検索も可能です。札幌キャンパスの交流プラザ「エルムの森」のキャンパス・ビジットセンターのパソコンと，内蔵カメラによる対話も可能になりました。

これまでのオフィス利用者数は，およそ1,000人。教育・研究の活動拠点，産学官連携活動として，多くの教職員の方々が利用し，同窓生の交流の場としても，頻繁に活用していただいています。今後は，教職員，同窓生の協力のもと，学生の就職活動支援にも力を注ぎ，これまで以上に利用していただくことを期待します。



北大交流プラザ「エルムの森」

本学には、四季を通して学会、打合せの他、修学旅行、観光による一般市民など多くの方々が訪れています。

北大を訪れた方々に、もっと北大を感じていただくため、平成12年4月、情報教育館内に「広報センター」を開設し、大学情報、進学情報等の提供を始めました。

本学が「開かれた大学」を目指すためには、「広報センター」をより多くの方々に利用していただく必要があることから、クラーク胸像に近い「旧昆虫学教室」の建物を改装し、平成15年5月、北大交流プラザ「エルムの森」がオープンしました。館内では、広報誌の閲覧や広報ビデオの視聴ができる他、休憩のための利用もできる施設となり、既に6,500人を超える方々が利用者しています。

「エルムの森」では、「広報センター」に加えて、「キャンパス・ビジットセンター」を配置しています。ここでは、本学が有する資産の魅力を高校生や市民の方々に伝えるプロジェクト「キャンパスビジット(CV)」の拠点として、「キャンパスツアー」などの企画・運営を行っており、キャンパスツアーは、コースの考案からツアーガイドまでを本学学生がボランティアで行っています。「エルムの森」の開所以降、多くの生徒や市民の方々に本学の魅力を紹介し、とても好評を得ています。

「エルムの森」になった「旧昆虫学教室」は、明治34(1901)年の建築で、現存する本学最古の校舎で、「登録有形文化財」に登録しています。この教室からは、世界的昆虫学者の松村松年博士の業績を世に送り出しており、約200万点にも及ぶ昆虫標本は、現在、総合博物館と農学研究科に収蔵して共同管理しています。



医学部保健学科の設置

平成15年10月1日に、医療技術短期大学部（3年制）を改組・転換し、医学部保健学科を設置しました。

近年の医学・医療の進歩はめざましいものがあり、医療技術は高度化するとともに専門分化してきております。看護師，助産師，保健師，診療放射線技師，臨床検査技師，理学療法士及び作業療法士などの専門医療職も医師等と連携し、医療チームの一員としてこれからの高度医療に対応することが求められてきております。

保健学科は、これらの医療状況に対応すべく、専門的知識を会得するとともに、科学的に医療技術の理論と実践を体系づける新たな医療技術学の確立を目指すことを目的として設置されました。

保健学科に設置した、5つの専攻をご紹介します。

「看護学専攻」は、社会の多様なニーズに対応できる高度な看護実践力と国際的視野を持った看護師，保健師及び助産師を育成することを目的としています。

「放射線技術科学専攻」は、X線，CTなどを駆使し診断に必要な患者さんの生体情報を得ることや、放射線を用いた高度な治療を行うことができる診療放射線技師（国家資格）の育成を目的としています。また、医療機器や医療情報システムの企業で活躍できる人材の育成も目指しています。

「検査技術科学専攻」は、尿検査，血液検査，微生物検査，がん健診や手術組織の細胞診・病理検査，心電図，超音波画像，脳波，眼底撮影などの臨床生理検査，各種生化学検査，免疫血清検査や染色体・遺伝子検査など多岐にわたる臨床検査法を修得し，臨床検査技師の国家資格を得て臨床医学や基礎医学ひいては保健衛生学の分野における検査技術の専門家となる人達を養成し，さまざまな検査の分野で将来指導的な立場に就く人材及び医療の発展にも寄与できる人材の育成を目的としています。

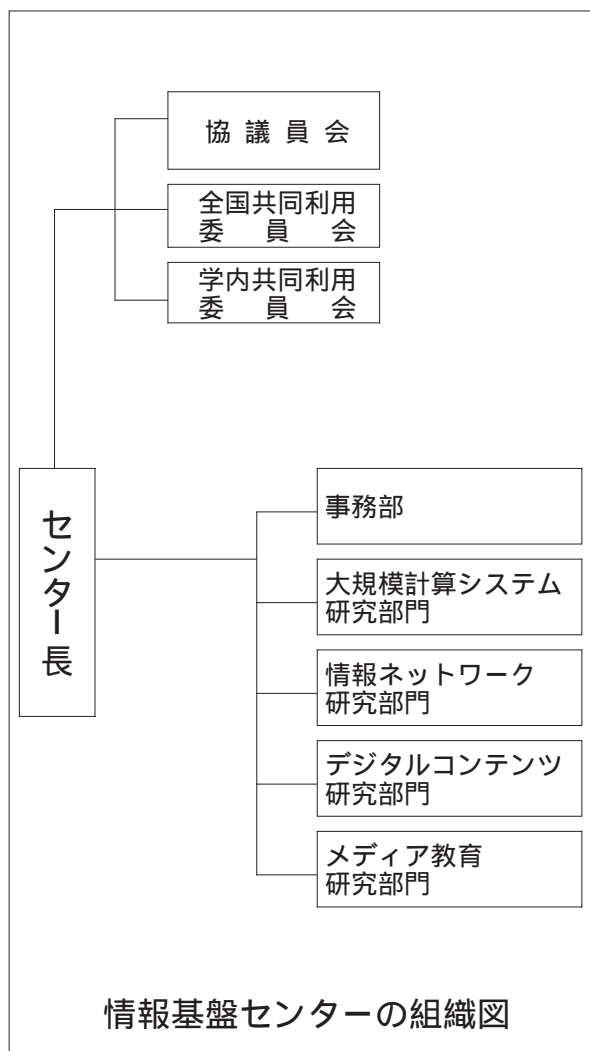
「理学療法学専攻」は、保健，医療，福祉，教育の分野において理学療法（Physical Therapy）を担う幅広い知識と高度な技術ならびに豊かな人間性と国際的素養を備えた人材の育成を図り，臨床及び教育・研究機関における指導者や教育者・研究者の育成を目指した教育の実現を志向することを目的としています。

「作業療法学専攻」は、幅広い教養と深い人間理解と高度で専門的な知識と技術を持ち，国際的視野に立った作業療法士（国家資格）の育成，ならびに保健学としての高度な作業療法の理論と方法を探求する研究者の育成を目的としています。

平成15年10月2日（木）には京王プラザホテル札幌において保健学科設置記念式典及び祝賀会が関係各位のご臨席のもとに開催され，盛会のうちに終了しました。



「情報基盤センター」の設立



平成15年4月1日に、全国共同利用施設の大型計算機センターと、学内共同教育研究施設の情報メディア教育研究総合センターを核として、これに言語文化部等の一部を改組し、情報基盤センターが設立されました。

情報基盤センターは、本学の21世紀に相応しい全学規模の高度情報化アカデミックキャンパスの実現を図るため、また、情報処理技術の飛躍的な発展により、教育研究活動における学術情報の蓄積、交換、利用及び事務情報等あらゆるものが情報技術に大きく依存、相互連携を強めていく新たな利用環境が到来するに及んでおり、このため、学内の分散する情報基盤資源を一元的に統合し、研究支援、教育支援及び学術情報提供支援をより充実・発展させるとともに、情報科学技術の進展に即した新たな情報環境の開拓と整備が必要とされていることから、既存組織体制では実施できなかった関連部局の連携機能を実現し、本学の特色ある知識ストック、貴重な学術データ及び基盤データを公開・共有することにより、独創的な研究推進の環境を実現するた

め設立されました。

情報基盤センターは、全国共同利用施設として、スーパーコンピュータ等を管理、運用しているほか、キャンパスネットワークHINES及び学内共同教育研究施設として教育用コンピュータシステムの管理、運用も担っており、本学の教育、研究の充実、発展のために大いに寄与することが期待されております。また、今後は更に高度情報化アカデミックキャンパスを実現する情報基盤の研究、企画、運営機能の充実、スーパーコンピュータによる高度な科学技術計算、安全な超高速キャンパスネットワークによる学術情報基盤の提供等、学内外から期待される役割はますます大きくなるものと思われます。

なお、平成15年11月6日（木）情報教育館において、設立記念式典及び記念講演会が行われました。

21世紀C O Eプログラム（研究拠点形成費補助金）の採択

21世紀C O Eプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野毎に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とするものです。

本プログラムは、大学院博士課程の専攻等の研究教育拠点形成計画について、各大学の学長から申請を受け、学問分野別の第三者評価を行い、補助金を交付するもので、日本学術振興会を中心に運営される「21世紀C O Eプログラム委員会」で審査・評価が実施されました。

本学では、各大学間の競争原理に基づき採否が決定される本プログラムに対し、研究推進戦略室を設置して総長を中心としたマネジメント体制を構成して臨んだ結果、平成14年度には4拠点、平成15年度には6拠点の合計10拠点が採択されました。

この結果は、あらゆる専門分野に及び多様な学部・大学院及び研究所を有する基幹総合大学へと成長した本学が、自然、人文、社会の諸科学を総合した学際的なプロジェクト研究の拠点を形成して、世界に発信する研究を展開してきたことへの評価を受けたものです。

選定された拠点に対しては、文部科学省から研究拠点形成費補助金が交付され、予算額は、平成14年度は182億円、平成15年度は334億円（うち平成15年度採択分は158億円）で、各拠点に対し、5年間にわたり年間1億～5億円程度が交付されます。

21世紀C O Eプログラムの分野構成と選定件数(全国)

平成14年度					
分 野	生 命 科 学	化学,材料科学	情報,電気,電子	人 文 科 学	学際,複合,新領域
選定件数	28	21	20	20	24
平成15年度					
分 野	医 学 系	数学,物理学,地球科学	機械,土木,建築,その他工学	社 会 科 学	学際,複合,新領域
選定件数	35	24	23	26	25

平成14年度(4拠点)

分 野 名	主たる専攻等名	拠点リーダー	拠点のプログラム名称
生命科学	理学研究科 生物科学専攻	長 田 義 仁	バイオとナノを融合する新生命科学拠点
情報、電気、電子	工学研究科 電子情報工学専攻	田 中 譲	知識メディアを基盤とする次世代ITの研究
人文科学	文学研究科 人間システム科学専攻	山 岸 俊 男	心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点
学際、複合、新領域	地球環境科学研究科 大気海洋圏環境科学専攻	池 田 元 美	生態地球圏システム劇変の予測と回避

平成15年度(6拠点)

分 野 名	主たる専攻等名	拠点リーダー	拠点のプログラム名称
医 学 系	獣医学研究科 獣医学専攻	高 島 郁 夫	人獣共通感染症制圧のための研究開発
数学、物理学、地球科学	理学研究科 数学専攻	小 澤 徹	特異性から見た非線形構造の数学
機 械、土 木、建 築、その他工学	工学研究科 都市環境工学専攻	渡 辺 義 公	流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム
社会科学	法学研究科 法学政治学専攻	田 村 善 之	新世代知的財産法政策学の国際拠点形成
学際、複合、新領域	理学研究科 地球惑星科学専攻	岡 田 尚 武	新・自然史科学創成：自然界における多様性の起源と進化
	スラブ研究センター	家 田 修	スラブ・ユーラシア学の構築：中域圏の形成と地球化

21世紀C O Eプログラム拠点活動報告会の開催

21世紀C O Eプログラムに採択された本学研究拠点の活動状況の周知と平成15年4月に東京の新高輪プリンスホテル内に開設した「東京オフィス」のアピールを目的に、「21世紀C O Eプログラム拠点活動報告会」を実施しました。

報告会では、平成14年度に採択された4研究拠点の拠点リーダーによる活動報告を中心に、平成14・15年度採択拠点のパネル展示と同時に報告会会場までの動線に「北大の歩み 歴史と未来」と題し、開学からの移り変わっていく北大の姿をグラフィックパネルで展示しました。

(1) 開催日時：平成15年10月1日(水)

15:00～ パネル展示 16:30～ 平成14年度拠点活動報告会

(2) 会 場：新高輪プリンスホテル【会場：飛天・さくら】（東京都品川区）

(3) 参 加 数：約400名

(4) 対 象 者：企業・個人等

さらに、平成16年3月に札幌市内のホテルを会場に、帯広畜産大学の拠点の参加を得て、11拠点による拠点活動報告会を実施しました。

「平成15年度特色ある大学教育支援プログラム」に 本学の教養教育システムが採択

特色ある大学教育支援プログラムは、個性輝く大学づくり、国際競争力の強化、教養教育の充実など、大学教育の改善に資する種々の取組みのうち、特色ある優れたものを選定し、その事例を広く社会に情報提供することで、今後の高等教育の改善、活性化を図ることを目的として、平成15年度から設けられたものです。

全国の大学・短期大学から総数664件の申請があり、書面審査、ヒヤリングを経て全国で80件、道内からは本学を含め4大学のプログラムが採択されました。

本学の取組は、フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育及び実学の重視の教育理念に基づき、有能な人材育成のための教養教育を組織的に取り組んでおり、教務委員会を柱とする新しい北大方式が機能していることに対し、審査員から高い評価がなされております。

今回採択されたプログラムの概要を次に紹介します。

本学では、平成7年度の「学部一貫教育」の導入以降も、札幌農学校以来の伝統である全人教育＝教養教育を重視し、総長の主導による全学的な検討を経て、平成13年度にリベラルアーツを中心とする必須の教養科目＝コアカリキュラムによる教育を開始しました。

本学のコアカリキュラムの特色は、大きく次の3点にまとめられます。

- 1 シンプルな構造と高い普遍性を備えた科目群からなり立っていること。
- 2 多彩な新機軸の科目が次々と開発されていること。
- 3 教員研修（FD）、教授法開発、教育評価の仕組みが整備されていること。

また、組織の面では、高等教育機能開発総合センター全学教育部を中心とした「責任部局」と「全学協力」による教育実施体制と、研究部の科目開発・教員研修（FD）・教育評価の活動が連携して、一つのシステムとして有効に機能していることに大きな特色があります。

コアカリキュラム＝純粋な教養教育の整備の先には、基礎教育・専門教育の再編成「総合的な学士課程」の構築が展望されております。

なお、採択されたことに伴う支援経費として1,500万円措置され、新たに導入される理科基礎科目のための統合講義システムを構築することにしております。

また、大学基準協会主催によるポスターセッションが平成16年1月21日（水）に大阪で22日（木）に東京を会場として催され、本学の取組みに対し多くの参加者から質問等が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

プログラムの名称	取組代表者
進化するコアカリキュラム - 北海道大学の教養教育とそのシステム -	文学研究科 教授 安藤 厚 (高等教育機能開発総合センター長補佐)

「新しい北大方式」の機能

